

分光式ハンディ型残留農薬測定装置

青山学院大学 理工学部 准教授 淵 真悟、豊橋技術科学大学 工学研究科 教授 岩佐精二、助教 加藤 亮
科学技術交流財団 研究員 上村彦樹
三井金属計測機工株式会社 天野啓二

▶〈関連ページ〉7ページ

狙い 畑やその脇で、農作業時などの気になった時にすぐに使える現場での使用を想定している。微量の試料を用いて、特別な技術などを必要とせず誰でも迅速に、収穫前後の農作物について全数検査を実施できる装置を目指している。

用途 農作物に残留する農薬の分析は極めて重要であるが、現状の公定法では抜き取りかつ破碎検査が主流で、全ての農作物を測定することはできない。そこで、光を使用することで非破壊かつ高速な、場所を選ばず全数検査可能な農薬測定方法として本装置を開発している。本機によってデータ測定を行い、データ解析は別途パソコン等でおこなうことにより、小型化を実現している。

特長

- サブppmレベルの農薬を約1分で測定可能。
- 小型で片手での持ち運びが可能。
- データ測定機として使用し、処理をPCと分担することで小型化。

仕様

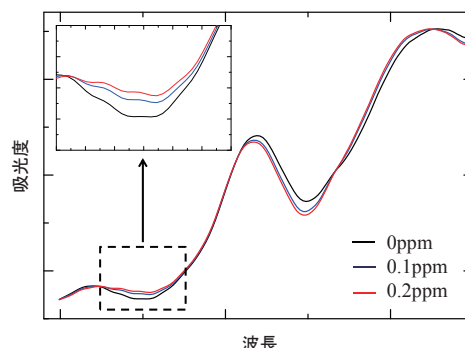
機能／残留農薬濃度測定(サブppmレベルの農薬:約1分)
外寸／W:75×H:65×D:170mm
重量／440g
その他／データ解析はパソコン等で実施



- ・単3電池5本で稼働
- ・測定結果の表示、データ解析にはUSBケーブルによるPCとの接続が必要



歴代最小モデルを実現。コンパクトかつ軽量で、片手での持ち運びが可能。



希釈したCu標準液の測定スペクトル。サブppmレベルの濃度変化に伴う吸光度の変化を捉えることができています。

- お問い合わせ／三井金属計測機工株式会社 技術統括部 取締役 兼 技術統括部 部長 天野啓二
e-mail : k_amano@mkk.mitsui-kinzoku.co.jp 電話番号 : 0568-74-7670 FAX : 0568-76-7830
- 特許の有無 : 無